職種や組織を超えた ネットワーカーを目指す！

東広島地区医師会あざれあの活動報告

社団法人 東広島地区医師会
地域連携室 あざれあ

杉本 由起子・竹中 雄一・玉井 一美

東広島市はここ

広島県
HIROSHIMA
島根県
庄原市
岡山県
三次市
神石高原町
北広島町
安芸太田町
世羅町
府中市
広島市
東広島市
尾道市
福山市
三原市
廿日市市
竹原市
坂町
大竹市
呉市
江田島市
大崎上島町

東広島市（9町）

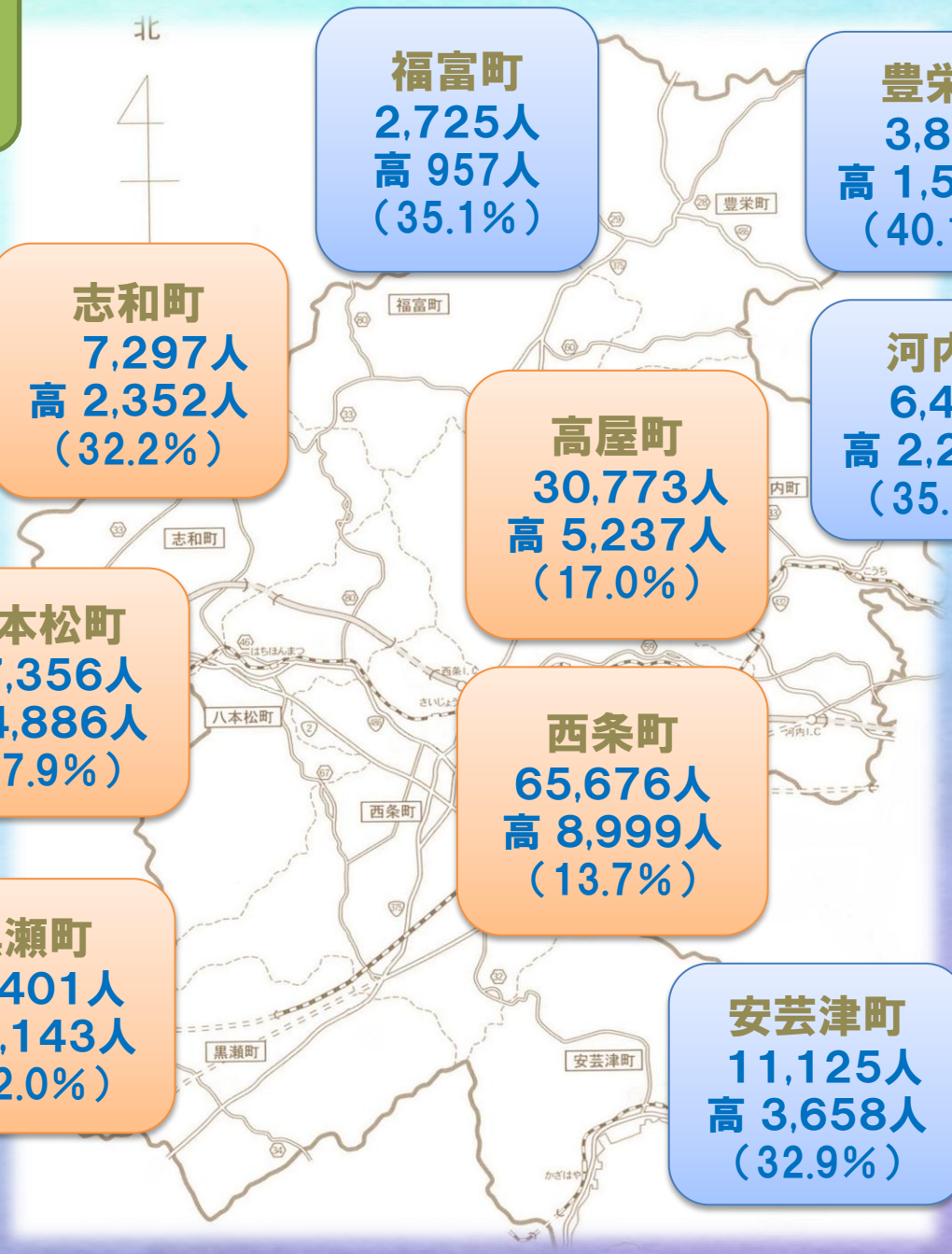
世帯及び人口

（平成23年3月末）

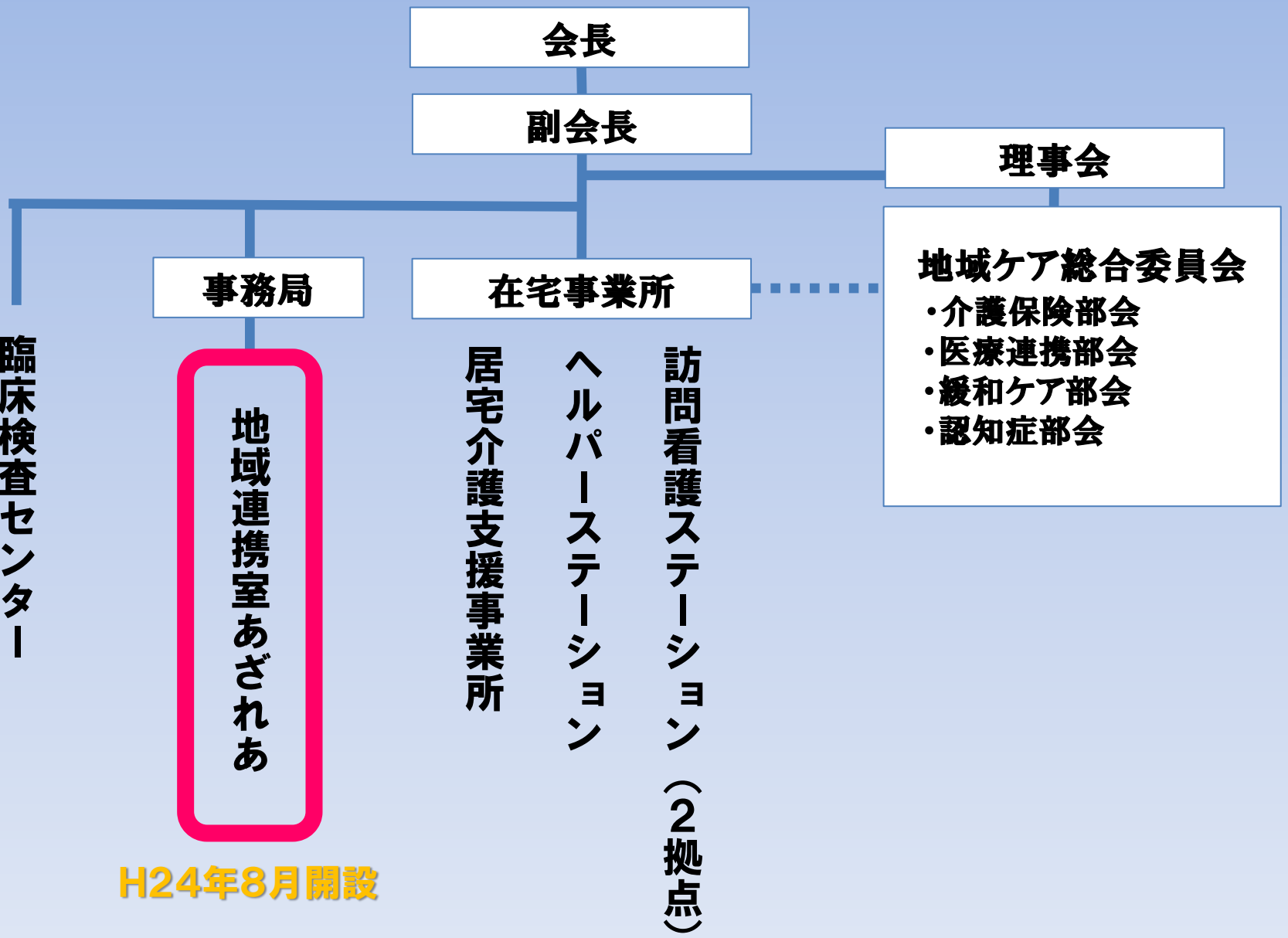
総　　数　178,653人
高齢者人口　35,048人
高齢化率　19．6%
平成37年度予測　21．3%

対応エリア
5町人口

154,503人
高 26,617人
（17.2%）



地域連携室組織 （平成24年度）



東広島地区医師会　地域連携室

“あざれあ”が目指すこと

組織や職種を超えた地域の
ネットワーカーを目指す！

ネットワーカーとは

“協働する組織づくりのための
連携作業を自ら進んで担う人“
（別紙資料参照）

タスク①
多職種連携の課題に対する解決策の抽出に対する実践

1：介護保険事業所にアンケート実施（8～9月）

サービス内容と多職種連携上の課題　資源マップに反映

2：地域包括ケア会議参加（2か月に1回　4地域包括）

地域の実際を知る

3：自立支援協議会参加　（毎月1回）

障がい福祉関係の実際を知る

4：1．2．3を踏まえ多職種交流会（10月開催　2月開催予定）

「在宅療養を支える人々の交流会」開催し
①多職種連携上の課題　②在宅療養をする上での地域課題をGW

5：4を踏まえ地域包括ケア会議にて解決策と実践者の検討（1地域包括にて開催　2月実践報告会予定）

①－４　多職種交流会

盛り上がったGW

付箋は５００枚を超えた！

タスク②

在宅医療従事者の負担軽減の支援

１：在宅医療を担う医師の実際数把握（１月・６月）

地区医師会より2回のアンケートを実施

２：ICTによる情報共有促進（説明会9月開催運用開始10月）

EIR導入による情報共有に伴う負担感の軽減（時間・医師への報告等）

運用状況　患者　２１　名　　医師　１３名　事業所　２８

３：自立支援協議会参加（毎月開催5回参加　必要時部会参加）

障がい福祉関係者の負担の実際を知る

4:在宅人工呼吸器研修会　（参加者20名）

訪問看護師・通所事業所看護師対象に開催

②－１　アンケート結果の抜粋

２回のアンケート　まとめ　（Ｈ２４／６）

- 往診に積極的な医師が半数近くいる。
- 内科、皮膚科、精神科、眼科、耳鼻科など多数の科目が往診可能である。
- 1週間の最大往診数は200人程度はあり、医療資源としては現在は十分ではないか。
- 往診には多くの問題点もある。24時間対応、難処置対応、稀な器具・薬品設置、職員対応などが困難な施設が多い。

②－２　ICTによる情報共有促進

EIR（エイル）説明会　（参加者100名）

②－4　在宅人工呼吸器研修会

タスク③
効率的な医療提供のための多職種連携

1：資源マップの作成（８～９月アンケート結果より）（１１月配布）

提供可能なサービス　医師、歯科医師、薬剤師は在宅医療を
実践している所のみを掲載　医師については面談方法、時間を掲載

2：地域包括ケア会議参加（2か月に1回　4地域包括）

拠点事業所と地域包括との顔の見える関係つくり・地域の実際を知る
合計　１１　回参加　８月　センター長会議へ参加

3：多職種からの相談受付

８月～１２月　毎月２０件程度の相談あり
退院後の在宅医、サービス事業所の相談等もあり

4：退院前カンファレンスに同行（ケアマネ・訪問看護師）

医療依存の高い方に対し、同行してアセスメント支援　７回

③－1　資源マップの作成

在宅対応資源MAP（5町）

医　　科	２９件	（116）
歯　　科	１４件	（72）
連携薬局	３１件	（73）
訪問看護	４件	（５）

（ ）内：圏域内施設数

志和町
医　　科　２件
歯　　科　１件

高屋町
医　　科　６件
歯　　科　５件
連携薬局　７件
訪問看護　１件

八本松町
医　　科　３件
歯　　科　３件
連携薬局　４件

西条町
医　　科１５件
歯　　科　４件
連携薬局１９件
訪問看護　２件

黒瀬町
医　　科　３件
歯　　科　１件
連携薬局　１件
訪問看護　１件

平成24年9月調査実施

③－1　資源マップ　10月完成　11月配布

③－1　資源マップ（WEB版　開示予定）

③－3　多職種からの相談受付

９月例

相談依頼先	相談内容	件数
市　民	就労支援への引き継ぎ・精神的支援	２件
ケアマネジャー	利用者家族と面談同席	１件
	退院時調整支援（医療依存度の高い）	２件
	医療ニーズのマネジメント支援	１件
	在宅死亡時の制度について・地域資源に関すること	１件
病院の地域連携室	退院支援の方向性	２件
	地域の社会資源について	３件
	在宅医の問い合わせ	２件
	医療材料について・処置方法について	３件
訪問看護ステーション	制度の問い合わせ	３件
	利用者に関する支援関係	１件
施設相談員など	病院紹介・レスパイト先紹介	２件
	社会資源活用方法助言	１件

タスク④
在宅医療に関する地域住民への普及啓発

１：地域連携室“あざれあ”の広報

ホームページ・チラシ活用

２：デイケアにて「在宅医療のミニ講座」開催

１０月　１１月の2回　開催　参加者合計　　６２名

３：第１回市民公開講座　　参加者２６３名

「死にゆくあり方を考えると生き方が見えてくる
～自分らしく生きる～」１１月開催

第２回市民公開講座

「平穏死・１０の条件」２月開催予定

４：地域包括ケア会議出席時民生委員との交流

④－1　広　報　（チラシ・ホームページ）

東広島地区医師会 地域連携室"あざれあ"が
組織や職種を超えた地域のネットワーカーを目指す！

活動内容

①相談窓口：在宅療養者・ご家族様から
多職種の方（医師・歯科医師・薬剤師・ケアマネジャー・MSW・相談員・病院看護師・訪問看護師・ヘルパー）から、いつでも相談を受け付けます。また、電話や来訪相談だけでなく、出張相談にも応じます。

②病診連携促進：入退院時の連携

③多職種連携支援：多職種の顔が見える関係作りを支援

東広島地区医師会

平成24年厚生労働省モデル事業・在宅医療連携拠点事業

地域連携室 あざれあ

〒739-0003 東広島市西条町土与丁1113番地

TEL (082) 423-7360

FAX (082) 423-7361

トップページ - Windows Internet Explorer

http://www.east-hiroshima-med.or.jp/azalea/

ファイル(F)　編集(E)　表示(V)　お気に入り(A)　ツール(T)　ヘルプ(H)

ログイン

Lust Update:2012/12/26

東広島地区医師会

平成24年厚生労働省モデル事業・在宅医療連携拠点事業

地域連携室 あざれあ

～組織や職種を超えた地域のネットワーカーを目指します！～

メインメニュー

- トップページ
- ごあいさつ
- 在宅医療連携拠点事業とは
- 業務内容

☆お知らせ☆

NEW 「介護職の介護倫理に関する研修会」のお知らせ

日　時：平成25年1月11日（金）　18:30～20:00
会　場：東広島保健医療センター3階　大会議室

講義：「介護職の介護倫理と心構え」
講師：医療法人好縁会

④－2　デイケアにて「在宅医療のミニ講座」

④－3 第1回市民公開講座

「死にゆくあり方を考えると生き方が見えてくる
～自分らしく生きる～」

④－3

平成 24 年在宅医療拠点事業

第2回市民公開講座

「平穏死」10 の条件

― 最期まで住み慣れた街で暮らすために ―

自分の最期は自分で決める

平穏死「自然な死は穏やかです」（長尾和宏氏）

講 師　医療法人社団裕和会 理事長
長尾クリニック 院長

長尾 和宏 氏

2013 年 2.3（日） **入場無料**

14:00 ～ 16:00（開場 13:30）

（Ⅰ部）講 演
（Ⅱ部）シンポジウム、ディスカッション
・家族の立場：在宅で看取りをされたご家族
・訪問看護師の立場：支援された訪問看護師

場 所　**広島大学サタケメモリアルホール**

主 催　社団法人 東広島地区医師会
後 援　東広島市

事前参加申し込み
電話またはFAXにて受付
1月25日（金）まで

［お問い合わせ］
社団法人　東広島地区医師会
地域連携室　あざれあ
TEL（082）493－7360
FAX（082）493－7361

第１回市民公開講座「自分らしく生きる」に続き、皆様からご要望のあった「平穏死」を第２回目のテーマとして開催することとなりました。
『「平穏死」１０の条件』　その答えをご自身でお聞きして、ご確認ください。

第2回市民公開講座

タスク⑤

在宅医療に従事する人材育成

１：在宅医療の実際を知る研修会（１０月・１２月開催）

対象：医師・歯科医師・MSW・ケアマネ・訪問看護師　参加合計155名
診療所医師、事務からの診療報酬に関する相談（Ｑ＆A集作成予定）

２：退院調整支援研修会（看護協会支部研修会）シンポジスト参加（１２月開催）

対象：看護師　５０名

３：在宅でのたん吸引に関する基礎知識（１月開催）

対象：ケアマネ・訪問看護師・ヘルパー事業所管理者

４：介護職の倫理に関する研修会（１月開催）

対象：介護職

５：在宅医療従事者相談支援

ケアマネ・訪問看護師・MSWなど

⑤－1

在宅医療の実際を知る研修会　パートⅠ

⑤－2
『看護師が行う退院支援・退院調整の実際と課題』

⑤－5
在宅医療従事者相談支援

- 8月～12月相談実績集計・・・・ 平均20件/月の相談あり
- ケアマネジャー資格を持つ看護師対応件数・・・・・・・・・ 69件
- 社会福祉士対応件数・・・・・・・ 31件

現時点でのまとめ

タスク①
多職種連携の課題に対する解決策の抽出について

１：資源マップにより、地域サービス事業所のサービス内容を知ることが出来た

２：他職種交流会では、名刺交換の時間設定やグループワークでのファシリテーターの選出、グループ作りにより、多職種交流の効果が高かったのではないかまた、アンケート結果から多職種交流会は多くの職種が望んでおり、連携には有効との結果が出た

３：アンケートや多職種交流会より出された、課題を地域包括ケア会議により具体策を導くことが出来るのではないか（地域包括と協働）

現時点でのまとめ

タスク②
在宅医療従事者の負担軽減について

１：医師会による、在宅医療を担う医師へのアンケートにより、在宅医療の中心である医師の意識や社会資源が明確にできた

２：ICT（EIR)導入により情報交換や報告に対する心的・時間的負担の軽減が図れるのではないか

３：自立支援協議会相談支援会議等への定期的な参加により、医療的側面での障がい者支援が出来てきているのではないか？

４：在宅人工呼吸器勉強会後より、在宅人工呼吸器の方が１名通所利用することが出来た

現時点でのまとめ

タスク③
効率的な医療提供のための多職種連携について

１：資源マップを配布することにより、ケアマネジャーの負担軽減が図れると予測（医師面談時間方法掲載等により）

２：地域包括支援センターと顔の見える関係により、感情の理解が得られお互い相談しやすい関係となり実践の場面での連携構築につながるのではないか

３：多職種からの相談があり、医療面のアセスメントに役立っているのではないか

４：在宅医療移行に対し、アウトリーチを行うことで課題解決やアセスメントに役立っているのではないか

現時点でのまとめ

タスク④
在宅医療に関する地域住民への普及啓発について

１：地域住民からの電話相談があることから、市民の相談窓口の１つとして存在していくと予測できる

２：ディケア参加者に対し、具体的な在宅医療の実際をテーマにして講座を開くことで「在宅医療」を知る１つの方法になるのではないか

３：石井苗子氏の市民公開講座「自分らしく生きる」は、今後の自分の生き方、死に方について考えるきっかけに有効であったのではないか（アンケート結果から）

４：市民公開講座アンケートから、次回は希望のあった「自然死」をテーマに開催する予定
これにより「在宅医療」に対する市民啓発の効果が高くなると考えられる

現時点でのまとめ

タスク⑤
在宅医療に従事する人材育成について

１：様々な研修会により知識面、技術面の向上が図れているのではないか

２：研修会参加者同士の顔の見える関係つくり促進の役に立てられているのではないか

３：小規模事業所や医療職不在の事業所の、医療知識の支援やアウトリーチを通し人材育成支援もできているのではないか

４：介護支援専門員の資格を持つ看護師が、訪問看護の経験があるため在宅医療や退院に向けての調整の知識や経験が多いことが様々な活動に有効であるのではないか

５：社会福祉士が急性期病院の経験があるMSWのためそれを活かし、相談支援を行えるのではないか